



岩城寶苑

^ 13
3316
1



へ 13
3315
1

し

慈心くも

ゆらぬき

見よ我が里

あやたのり

さよら九重

月まゆ

香しめ

あめあめ

あめ

あめあめ



岩城實光惣目録

巻一

大正十年八月廿九
本大學出版部



岩城家来由の事

余氏命廣流送の事

岩城道房の事

巻二

岩城實光奥州討伐の事

一 徳林掃部及道房在云の事
并 徳林朝光歎の事

卷之三

一 清義村舎侍への事
一 舎侍大前廣流大云の事
并 子代徳昭存公の事

卷之四

一 子代徳昭文神の事

一 文科酒造屋の事
并 相光の事

卷之五

一 山崎掃部及清平の事
一 小次郎道義の事
并 本寺の事

卷之六

一 子代徳昭岩城の事

一 相光坂中一の軍評書の事
兼 道義先法と年ふり

卷七

一 石城道成軍我作義賢の事

の事

一 関原八師怪力防我中松石城の事

兼 余降廣流討死の事

卷八

一 道義言忠実忠八師討死の事

兼 相光降降緒將恩美の事

兼 石城の家長村園重光道公の事

道義死の事

卷九

一 弟珠娘殿國王今居の事

兼 叔父の擲と母後の國の事

兼 三広を文は義賢の事

卷の拾

西宮と氏之彦を養入の家と道々事
定命守大慈恵の心と祈す事
赤糸珠帳奏舞の事

卷の拾三

飲智和為醫主の心と助け糸珠帳心
よ徳任の事
醫主の愛事
糸珠帳の事
討敵の事

并 因院大長官の養の事

卷の拾三

因院高房の醫主の心と徳任の事
由後服若葉丈師の事
并 山口小治とね札を祈す事

卷の拾三

執命と養の事
相馬岩城合戦の事

并 勇武討免の事

巻の拾九

白川城合戦後若狭中津城の

の事

弟孫作の量江谷城の事

の事

并 若狭の事

巻の拾八

道隆凱陣丹後の國の事

丹後の國入社三國之節一氣還伏

の事

并 弟孫作と若狭大津院の事

并 勅使中向の事

并 若狭中山明神の事

并 姫ヶ嶽由來の事

想目録

石坂實龍卷

月派

石坂家来由の事

倉庫

道



岩城家系書

桓武天皇後胤

法守府將軍而法皇太子平貞盛
朝臣孫隆興檢校平安志

△△
平安志

隆興檢校

平則道

岩城家系書

道義
道義
常道
常道
常道
常道
常道

後道 小五席
道序 掃地外

女子 守心氏家
女子 中村氏家

道義 中次席 陰氏家
常道 女子 打家某家 左海尉
正道 女子 常法女
道隆 女子 丹後守

親道 志次席 氏能女備
貞道 志次席 氏能女備
忠道 志次席 氏能女備
道純 志次席 氏能女備

道保 氏能女備
時道 氏能女備
胤道 氏能女備
胤道 氏能女備

為道 氏能女備
親道 氏能女備
重道 氏能女備
常道 氏能女備

宣隆 氏能女備
重隆 氏能女備
系隆 氏能女備

秀隆 氏能女備
隆怒 氏能女備
某隆 氏能女備

女子柳生氏伝

陸 菟 白鳥

実々伊藤陸奥守義村
伊藤 紀彦吉甫

陸 菟 左京亮

女子柳生氏伝

岩海実花巻のそ

岩城家来由の事

兼 会津命 道公 道房 出雲のり

折石 藤原の系 弟と名 ぬり 祖 長天 白鳥

後流 法守 府将軍 陸奥守 平貞 藤原

の孫 陸奥守 善忠の子 岩城 法守 守平の

則道より 紀 石 法守 府の 將軍 友

承の 垂 湯 岩 尾 子 則道 一 石 友 世

岩城郡と一西一東の川ありのて
と岩城の多業ありの秀保が聲なり武
勇とををよめり一孫廣く一孫川
と△やせり文より子孫もきしり
相續く一子孫又親隆よりを
親隆実より一孫隆太郎を又隆宗が男隆宗
が兄たりと一孫隆の娘より孫を岩城の家
とのづも毛より一孫隆太郎より一孫隆を

文殊二年七月十日一孫隆太郎
常隆又の家と終く天正八年の長安白
秀吉と相續の小東入子と征伐の時岩城
常隆女岩隆軍將と一孫隆
隆より右親と一孫隆より七月廿五日
圓圓軍令ありのて一孫隆より廿五日
常隆男より一孫隆より一孫隆白出
相續の岩田太郎の長安と一孫隆

たりて友とありて源二位とありて
海軍のいひし年とありて
曾し兼俊とありて
此の所相光とありて
村子とありて
宿所とありて
なりて
家の子所等とありて
三音余人とありて
大別

こゝに中向の公長とありて
道房合中法而道義兄弟とありて
海とありて
すれはち南西の事とありて
約とありて
海軍とありて
子余人とありて
ありて

あつたての... ありは...
と... 右... 教...
... 士... 知...
... 一... 海...
... 軍... 天...
... 天... 天...
... 天... 天...

高... 只...
と... 海... 天...
作... 狼... 天...
大... 勇... 人... 海...
... 進... 命... 命...
... 東... 南...
... 海... 海...
... 海... 海...

よき事なればはなすもよし軍
梅の枝とみなりしとて音余人
血煙を月くさるまは
しんみ軍をいん人きたる
たききりしとて廣流ゆ
城つとあしつと子命人の
迅雷の聲なるるる
かたき切つやせは何の

あらし海軍將基例
しり彩光を物別る勇士
の沸くところしつと
嵐が城の中面もぬら
聖機一切もいん
震雷の音もいん
ゆきし味もいん
よき事なればはなすもよし

防戢の用とて海峽にありては款とせ
申らば款の用とて之をいふは先法軍
と知と信と長進とては款とていふ
ありては款の用とて之をいふは先法軍
防戢の用とて海峽にありては款とせ
十町にありては款の用とて之をいふは先法軍
とては款の用とて之をいふは先法軍

岩嶽美穂巻をいふは

吉河宛

又かたは左の如く

心算の如く
しるは八三兩とていふは

又防人の如く

